

# 報寺敬覚

2月号

月刊●敬覚寺報

〒177-0032 東京都練馬区谷原6-8-12  
TEL 03(3996)1833 大江義宏

● ニュージーランド  
テ・ワヒポウナム

▼二〇〇三年二月一日▲

オーストラリア大陸と南極との間に位置するニュージーランド。その南端に位置するフィヨードランド国立公園の広大な自然は容易に人を寄せつけようとしません。この地方の探査が始まったのは、一九六〇年代に入ってからでした。ここは年間二百日も雨が降り、地球上でもっとも降雨率の高い地域なのです。十四のフィヨールド、千〜二千メートル級の山々、広大な密林、深い湖が、雨の中に霧っています。一億五千万年前にはつながっていたオーストラリア大陸から、八千万年かかって現在の位置まで離れていったニュージーランドの自然は、外部からの影響をほとんど受けることなく古代の姿を保つことが出来ました。まさに生物学の宝庫なのです。十四種のマキ属の樹木、飛べない鳥キウウイの系譜は数百万年さかのほることが出来ます。陸貝の一種はカタツムリの祖先として考えられ、太古の昔、森をはい回っていたと想像されます。一九九〇年、自然遺産として登録されました。

## うけつがれるもの うけついでいく心 —— 世界遺産 ——



標高2000メートルを越える地点にある  
フォックス氷河



ニュージーランドの国鳥キウウイ  
夜行性の走鳥類

# だれでも真宗講座(2)

瓜生津 隆真 (うりゅうづりゅうしん)

1932年滋賀県生まれ、龍谷大学卒、東京大学大学院修士、文学博士。専攻は仏教思想史。現在京都女子大学名誉教授。著書に『ナーガールジュナ研究』『仏教から真宗へ』他。日本宗教学会、日本印度学仏教学会、日本仏教教育学会各理事。

法城寺住職

うりゅうづりゅうしん  
瓜生津 隆真



## 祈りと願い

去る十二月十日、毎日新聞の第一面に「祈り、公認、浄土真宗本願寺派」という見出しが載っていて、一瞬わが眼を疑った。記事を読んでその内容が見出しと必ずしも一致するものではないことがわかったが、見出しだけを見ると、宗派があたかも「祈り」を公認したかのよう受け取られかねないと危惧したのである。

ことの経過については、「本願寺新報」(十二月二十日号)に記載されているので、是非それを読んでいただきたいが、「祈り」ということについては、現世祈禱を否定してきた真宗教団では、現世の祈りに直結するおそれがあるということから、「健康をお祈りします」といった表現にも注意し、「念じます」と言い換えてきた。

しかし、宗教間の対話が求められ、世界平和や生命倫理、あるいは環境破壊の問題など、宗教の違いを超えて、宗教者がともに協力して取り組まねばならなくなった現代において、いかなる祈りであっても、たとえば世界平和の祈りということであっても真宗の教義にそぐわない、といってすましていられるか、という新たな問題が生じ、その取り組みが教団の重要な課題となってきたのである。

辞典には、「祈り」とは、神仏に請い願うこと、祈禱、心から希望すること、というおおよそ三つの意味が示されている。第三の意味はともかく、第一と第二の意味は、明らかに真宗の教義に反する。言うまでもなく「祈り」とか「祈る」とかいうことばを用いないように古来注意してきたのもそのためである。

それでは「祈る」というかわりに「念じる」といえばよいのかというと、問題はそう簡単ではない。ここで念じるとは、心に願う、あるいは心から希望するということで、先の第三の祈りの意味とかわらないが、祈るということにある請願や祈禱ということを含まないだけ、無難であるといえる。しかし日常のことばとして果たしてどれほど定着しているか、はなはだ疑問である。

私はとりあえず「願う」というように言ったらどうかと思う。なぜなら真宗教義では、「願う」ということは、根源において如来(仏)の本願、誓願、あるいは悲願につながっているからである。それとともにこの如来の願いがすべてのものをつつみ、生きぬく力を与えることを明らかにしている。日常の用い方としても、「健康を心から願っています」というように言ったらどうか。



仏説観無量寿經(觀經)[その2]光明

ぶつ せつ かん む りょう じゆ きょう かんぎょう こうみやう

經子◇こんにちは、住職さん。

住職◆やあ、風も穏やかで暖かい日ですね。梅の花が開きかけていますよ。

經子◇『浄土三部經』の話を続けてください。

住職◆『観無量寿經』(觀經)でしたね。人生の悲劇に直面した王妃イダイケに、お釈迦さまは「お念仏」の救いを説くのです。

經子◇阿弥陀さまの名を呼ぶのが南無阿弥陀仏・ナマンダブと称えるお念仏ですね。

住職◆そう。これを称名念仏といえます。お釈迦さまは、經の終わりにイダイケと弟子の(アナンに「汝よくこの語を持って、この語を持ってとは、すなわちこれ無量寿仏の名を持ってとなり」とお念仏をすすめています。

經子◇無量寿仏は阿弥陀仏のことですね。

住職◆梵語でアミタは無量の寿命無量の光明を意味しています。いのちと光がさわみない仏が、阿弥陀仏です。

經子◇では、無量寿仏は無量光仏といってもいいのですか?  
住職◆はい。親鸞聖人は『正信偈』を著して、その一番初めに

「帰命無量寿如来  
南無不可思議光」  
と、阿弥陀さまをたたえておられます。無量寿如来、不可思議光如来とは、阿弥陀仏のことです。

經子◇では、お釈迦さまは無量寿仏の光についても説法されているのですか。

住職◆『観經』の中に無量寿仏の光明がいかによろしいかを説かれていますが、歌舞伎の始まりはご存知ですか。

經子◇わあ、突然…。  
住職◆「出雲のお国」の念仏踊りからきたといわれますよ。

經子◇そうでした。これが光明と関係あるのですか。

住職◆『観經』にある次のことばで踊ったようです。だから念仏踊りです。  
「光明徧照十方世界念仏衆生 攝取不捨」というところですよ。

經子◇どういう意味ですか。  
住職◆「光明は、あまねく十方世界を照らし、念仏の衆生を攝取して捨てたまわらず」と読みます。

經子◇歌舞伎と『観經』は繋がりがあつたのですか。

住職◆お仏壇を見てご覧なさい。ご本尊のご絵像は後光が光っているでしょう。これは、無量寿仏(阿弥陀如来)の光明を表現しています。十方世界を照らし、念仏する者をおさめとつて捨てない光明ですよ。

經子◇「後光が光る、ほとけさま」と幼稚園で歌ったことがありません。

住職◆阿弥陀さまは、私の暗闇を破る光のほとけさまです。梅のつぼみがふくらんできたのは太陽の光が働いているからですね。それと同じように阿弥陀さまの光明は私たちを、「育て」「護り」「救う」力なのです。

經子◇イダイケは、阿弥陀さまの光明に包まれていったのですか。

住職◆そうですね。「苦悩を除く法を説く」と、お釈迦さまはイダイケに話しかけられて『観經』となりました。

經子◇イダイケは私たちでした。  
住職◆『大經』が「法の真実」を説き「観經」は「機の真実」を説くといわれます。光明をいただきますよ。

經子◇ありがとうございます。

# 蓮通信

## ■西本願寺展・開催

来る三月二十五日より五月五日までの予定で、東京上野の東京国立博物館（平成館）において、本願寺の至宝、西本願寺展が開催されることがまりました。御影堂平成大修復事業記念の一環として計画されたもので、西本願寺の所蔵品とゆかりの文化財が東京の地で一同に集まることは初めてのことです。主たる出品は

- ・国宝「鏡御影」
  - ・重要文化財「慕婦絵」
  - ・国宝 親鸞聖人筆「阿弥陀経註」
  - ・同右「観無量寿経註」
  - ・国宝「三十六人家集」
  - ・重要文化財 蓮如上人筆「歎異抄」
  - など、どれも必見のものです。
- 観覧料 一般 一、三〇〇円  
 高校・大学生 九〇〇円  
 小・中学生 四〇〇円

## ■平成十五年度 東京仏教学院生徒募集

・真宗学から仏教史等を一年間学んでみませんか。高校卒業以上であればどなたでも学習出来ます。月曜～土曜まで、時間は午後五時三十分～九時。定員五十名、築地本願寺での学習となります。入学案内、問合せは  
 中央区築地二―十五―一 築地本願寺  
 電話 ○三―三五四―一―一三―一まで

## ① 親鸞と法然

「たとえ、法然上人にだまされて、念仏して地獄におちたりとも、さらに後悔すべからず」とまで親鸞聖人が心服し敬愛した法然上人。短い間ですが浄土宗の開祖で親鸞聖人の師であった法然上人の歴史を迫ってみます。

法然上人は一三三三年美作国久米南条稻岡庄（岡山県久米郡）に生まれました。「勢至丸」の名。誕生後、しばらくして保元の乱、平治の乱と立て続けに乱が起り、平氏が全盛を迎えていく時代です。九才の時、父が討たれ、菩提寺に身を寄せます。十三才、比叡山延暦寺にのぼります。俊才ぶりは各僧の感嘆を呼び、十五才で出家、十八才の時「法然房源空」と号します。生父、時国は久米の地方官でしたが、夜襲に遭って討たれてしまったのです。上人は仇討ちを誓いますが、父、時国は遺言により「仏門に入り、私の死を弔って欲しい。そして、自分自身も迷いを離れ、救われる方法を見つけない」と法然に伝えたといわれています。

その後、母の弟の寺に預けられます。

## 日常に使う仏教語

### ■檀那・舍利・摩訶

寿司屋で聞いたお客との会話。

「旦那、きょうはシャリを変えたから、いつもと違うでしょう」

「うん、バカうまだね」

檀那―梵語のダーナを音写して、檀那と書きます。布施・ほどこしのことです。施す人を敬い檀那、旦那さまと呼ぶのです。

英語のドナー（提供者）とも語源のつながりがある言葉です。

本願寺派仏教婦人会では、二月をダーナの月として、布施・助け合いの運動を行っています。

舍利―梵語シャリラの音写で遺骨のことです。お釈迦さまを尊び各地に仏舍利塔が建てられました。白く小粒で貴重ということでお米を舍利と隠語で呼ぶようになったのです。

摩訶―梵語のマハーの音写です。大きい勝れた意味で摩訶不思議・摩訶般若などと使います。バカに大きい、バカにうまい、火事場のバカ力のバカは、馬鹿ではなく、摩訶が語源でしょう。